

特別支援教育において、ICFはなぜ活用されているのですか？ また、どのように活用されていますか？

【ICF活用の状況とその背景】

2001年にWHO（世界保健機関）総会で採択され、2002年に日本語訳が発行されたICF（国際生活機能分類）は、障害者基本計画(2002)の中で障害の理解や適切な施策推進の観点からその活用方策を検討する旨が記載されていますが、以降、様々な分野で活用が図られ、特別支援教育の分野においてもICFを活用する取組が行われてきました。それらの取組についてまとめた本研究所関係の冊子には次のようなものがあります。



〔ICF(国際生活機能分類)活用の試み〕、ジヤース教育新社、2005)



〔ICF及びICF-CYの活用、ジヤース教育新社、2007〕)



〔ICF児童青年期バージョンの教育施策への活用に関する実際研究〕成果報告書、2008)

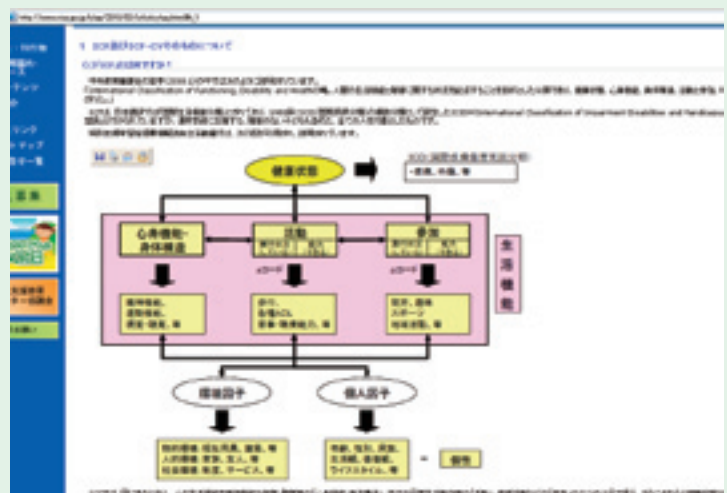
2009年現在、全国の特別支援学校の約5校に1校において、何らかの形でICF又はICF-CY（児童版）が活用されています。一方、ICFやICF-CYの活用においては、そのこと自身が目的ではなく、学校現場等で課題（例：障害名にとらわれすぎる子どもの見方や子どもに内在する力のみにも焦点を当てる子どもの見方、教職員や関係者間での共通理解の弱さ等）への認識を背景に持ちながら、それらの改善・充実のための手段として位置づいていることも分かってきています。

前述の活用状況については、本研究所が実施した全国調査によるものですが、その中では各校での活用状況が実に様々であることも明らかになりました。一方、活用の目的や背景等については、これまで特別支援教育においてICFを実際に活用してきた人等へのグループインタビューの分析を通して明らかになったものです。これらを踏まえ、それぞれの学校現場等の多様な課題の解決に貢献するために本研究を通して開発したICF又はICF-CYの活用方法案やツール等について、今後さらに実証を重ね、検討していく予定です。

【ICF活用を支援する手だて】

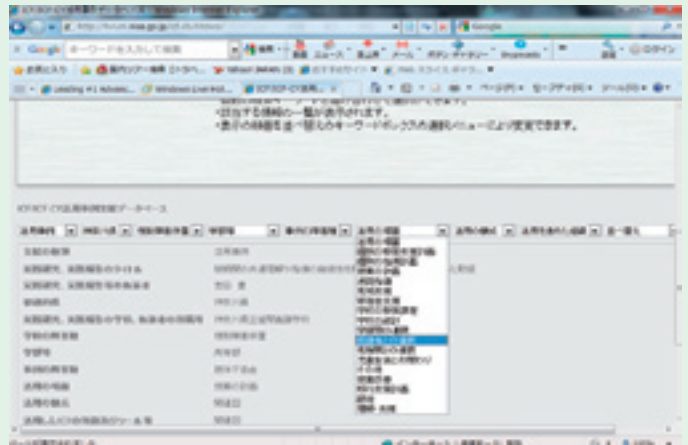
前述の全国調査において、ICF又はICF-CY活用後の成果について尋ねたところ、「教職員による幼児児童生徒に対する理解の仕方がより多面的・総合的になった」が最も多く、次いで「教職員間の共通理解・連携がしやすくなった」、「幼児児童生徒の目標設定がしやすくなった」が多く回答されました。一方、課題としては「ICF又はICF-CYへの基本的な理解が難しい」が最も多く、作業の繁雑さ、活用方法の理解等、技術的な課題についての指摘も比較的多く見られました。

このことを踏まえ、本研究においては、具体的な活用方法について検討するとともに、現場での実際の活用に資するツールとして「特別支援教育におけるICF及びICF-CY活用に関するよくある質問と答え(FAQ)」(上図)を開発し、Webサイトで公開しました。
(http://www.nise.go.jp/blog/2009/05/post_202.html)



同様に、これまで各地での取組が報告された文献について整理し、実際の活用に役立てやすくすることを目的として「ICF/ICF-CY活用事例文献データベース」(右図)を開発、Webサイトで公開し、コンテンツの充実を図っています。ぜひ一度ご覧ください。

今後、これらのツールについてもさらに実証を重ねて、よりよいものを発信していく予定です。



【ICF活用の状況—調査の結果から—】

ICF又はICF-CY活用のされ方は各校で様々であることは先に述べました。前述の調査の中で①活用場面、②活用目的、③活用の観点について、それぞれに用意した選択肢の組み合わせでの回答を求めたところ、次のような結果が明らかになりました。ここではそれぞれについて回答の頻度が高かったものについて紹介します。

①活用場面では、「個別の教育支援計画(個別の移行支援計画を含む)において」、「個別の指導計画において」、「授業の計画段階において」という順に多く、②活用目的では、「実態把握のために」、「指導・支援内容や方法の検討のために」、「実態から課題の抽出を行うために」という順でした。③活用観点では、「心身機能・身体構造、活動、参加という生活の機能に加え、環境因子や個人因子等を含めて多面的・総合的に人を理解するという考え方の活用」、「『参加』を重視する視点の活用」、「ICFの概念図を模した図(「ICF関連図」(下図参照))を用いて子どもの情報を整理する方法の活用」の順でした。



(ICF関連図の例(望ましい参加・活動から支援計画を考える際のワークシート、大久保、2007))

本リーフレットは、研究所で行った次の研究を基に作成しています。

【研究課題名(研究期間)】

専門研究A「特別支援教育におけるICF-CYの活用に関する実際研究」(平成20~21年度)

研究概要は、以下の頁でご覧いただけます。

http://www.nise.go.jp/blog/2009/05/post_202.html

【研究組織】

研究代表者 徳永亜希雄

研究分担者 松村勘由、渡邊正裕

研究協力者 大内進

萩元良二(平成20年度)

小松幸恵、菊地一文、猪子秀太郎、

横尾俊(以上、平成21年度)

研究研修員 加福千佳子、小林幸子

(以上、平成21年度)

【問い合わせ先】

企画部 徳永亜希雄

v08-ari-icf@nise.go.jp